

[044_04/06] 経済学研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/4474871>

出版情報：経済学研究. 44 (4/6), 1979-08-10. 九州大学経済学会
バージョン：
権利関係：



序

岩元和秋先生には、昭和53年11月、めたく還暦を迎えられた。ささやかではあるが記念論文集を編み、九州大学経済学会として祝意を表したい。

岩元先生は、昭和18年9月東京大学経済学部を卒業後、一時期戦時金融金庫、大蔵省に奉職されたこともあったが、昭和24年10月鹿児島経済専門学校（現鹿児島経済大学）教授に就任され、研究者としての途を選ばれた。爾来今日まで、30年に及ぶ学究生活が続いている。この間、昭和27年には鹿児島大学文理学部（現法文学部）に移られ、講師、助教授を経て、昭和32年教授に昇任された。そして昭和51年九州大学経済学部を迎えられ、財政学講座を担当して研究と教育にあたり、また大学院経済学研究科指導教官として後進の指導育成に尽力されてきた。

岩元先生の研究は、財政学とりわけ地方財政論の分野で光彩を放っている。しかもそれは、単なる地方財政論に終始するものではない。国と地方との間の財政関係を基軸として多面的、総合的に論究されているところに先生の研究の特色がある。御高著『現代地方財政論』（昭和46年刊）はその一つの集約であり、これによって学究として確固不動の地位を築き上げられたのである。

先生の御活躍は、もちろん、専門の財政学の領域にとどまるものではない。学内にあっては、九州大学に移られて後も評議員として大学行政に尽され、また九州大学経済学会長、財団法人九州大学出版会理事として学術研究の推進に努力されており、その功績は大きい。学外においては、日本財政学会理事、九州都市学会会長などの指導的立場にあって、学界の発展に貢献されている。また先生の学殖と人柄は、社会的活動においても遺憾なく発揮され、10数年に亘って鹿児島県地方労働委員会委員（公益委員）や鹿児島市交通事業経営審議会会長、そして鹿児島県について福岡県地方自治研究センター理事長などの要職を歴任され、さらに第11期日本学術会議会員として日本の学術振興のために大きく寄与されている。

還暦を迎えられたとはいえ、先生はきわめて壮健、いまなお学問への限りない情熱を傾け研究にはげまれている。先生の一層の御活躍を祈念し、今後とも変ることのない御鞭撻を心から御願い致したい。ここに経済学会長である先生に代って還暦記念論文集の序とする次第である。

昭和54年7月

九州大学経済学部長

片 山 伍 一